

第4回 札幌丘珠空港利活用検討委員会(書面会議) 委員意見一覧

■日 程: 令和2年5月8日(金) (1回目の意見提出期限)

令和2年5月25日(月) (2回目の意見提出期限)

■参加者:

◎委 員(50音順、敬称略)

石井 吉春	北海道大学公共政策大学院 客員教授
井戸 千江	公募市民委員
扇谷 由美子	公募市民委員
大沼 進	北海道大学大学院文学研究院行動科学分野 教授
河本 光弘	札幌国際大学大学院観光学研究科 教授
北島 英司	丘珠空港周辺のまちづくり連絡協議会 会長
坂田 文正	北区屯田連合町内会 会長
佐藤 肇	公募市民委員
高野 伸栄	北海道大学公共政策学連携研究部 教授
田村 亨	北海商科大学 教授
三澤 繁実	東区丘珠連合町内会 会長
安田 睦子	インタラクシオン研究所

○事務局

札幌市空港担当部

○オブザーバー

北海道航空局航空課

■議 題: 下記

(1) 札幌丘珠空港利活用検討委員会報告書(案)について

(2) その他

■議事要旨: 以下

<1回目の意見>

議題 (1) 札幌丘珠空港利活用検討委員会報告書 (案) について

大沼委員

次の2点について、修正をした方がいいような気がします。

①

p.4 上の方枠囲み内【委員からのその他の主な意見】の3つめの箇条書き

・道内で高度医療の出来る病院は
→道内という一語を入れた方が意味が伝わりやすいのでは。

②

p. 6, 「イ 空港ターミナルエリアにおける機能充実の検討」の枠組み内【委員からのその他の主な意見】の3つめ

・ターミナルビルというか空港を核にしたまちづくりというと、市民参加のワークショップをやると本当にいろいろなアイデアが出てくる。実現性はさておき、地域住民が本当にまちのことを思って熱心に議論していた。

→「本当に」が一文に2回出てくるので、前者を削除してはいかがでしょうか。

河本委員

報告書全体として、良くまとめられていると考えます。

「1. 丘珠空港の現状と課題」の記載において、滑走路長延伸の議論に加えて、現状の滑走路長においても可能な利活用を推進する議論について、追加した点は幅広い議論がされたということで良いと思います。「イ札幌・・・・・・空港機能」のタイトル変更は、幅広い議論の証左として良いと思います。

「(2) 将来像実現・・・・・・」については、ア、イ、ウの各箇所の修正によって、わかりやすく、かつ、より整理されて、重要点が強調された記載になったと思います。

「(おわりに)」についても、最終報告が遅れたこともあり、適切な記載になっているかと思えます。

以上、「報告書」全体の記載内容は各委員の議論がよく整理され、集約されているかと思えます。事務局の皆様の尽力に感謝いたします。

高野委員

新型コロナ禍により、現状ではインバウンド観光がほぼ皆無となり、人々の移動が大きな制約を受け、リモートワークが導入されている。そのため、新型コロナ収束後においても、交通機能に関して、構造変化が起きることも予想されるので、なお書きで、新型コロナに触れることは賛成ですが、「しかし、今回の事態により、今後は人の移動や交流に対する価値観が変化する可能性も想定されることから、社会全体の動向を注視し、新型コロナウイルス終息後を見据えた検討が必要である。」という文章について、確かに事実はこの通りとは思いますが、ここまで、言ってしまうと、折角ここまで議論を重ねて出した本報告書の結論の信頼性を弱めてしまうことになりそうな気がします。そのため、この「」は削除あるいは、表現を修正した方がいいと思います。

田村委員

8ページ「おわりに」の後段の記述

「なお、・・・・」以降の3段落は、もっとシャープに記載すべき（以下に、文案例を記します）。特に、「本委員会の当初の・・・・」の部分は、不要と考えるが如何でしょうか？

【文案例】

現在、コロナウイルスが世界的な拡がりを見せ、わが国のみならず世界各国で出入国の規制、外出禁止令や自粛の措置がとられるなど移動が制限されている。このような状況がいつまで続くかも見とおせないため、提案する丘珠空港利活用の方向性の実施が難しい状況にある。札幌市においては、コロナウイルスの状況に注視しながら、提言内容の実現に向けて、着実に取り組んでいくことを望む。

安田委員

- ・2(1)イ. 札幌市・北海道の持続可能な～

文脈の流れが整理されて、分かりやすい。

- ・2(2)ウ. 取組を進めるにあたっての方針

「地域住民」を含む、対話・連携の相手や進め方の方針が具体的に記されて、読みやすい。

- ・おわりに（追加部分 なお～）

検討会閉会時期の苦しさが実感される記述に感謝します。

北島委員

委員会で検討された件を纏められたことなので特になし。

坂田委員

報告書の内容については異議ありません。委員長に感謝いたします。

三澤委員

過去3回の委員会の意見がくみ取られていて、集約されていると思います。尚、丘珠地域の街づくりについて、住民の意見を尊重して進めて欲しいと思う。

井戸委員

①

報告書全体は委員会で話し合った方向性とマッチされていると思います。

個人的には、滑走路が延伸されなかった場合においても、空港の利活用について将来的に考えていくことに関して、もう少し記載があると良いのではと感じました。委員会の中で、滑走路の延伸無しに利活用を考えるべきではないという意見がありましたが、基本的に私もその意見には賛成です。しかしながら、その意見のみが全面に出ると、滑走路の延伸がかなわなかった場合に「丘珠空港はこの先どうすればいいのか？」という気持ちになってしまわないでしょうか。延伸なされなかった場合においても、空港と周辺地域の観光施設等を活用した街づくりを検討し続けるといったことを報告書に組み込むのは難しいでしょうか。エプロン整備とか現状のターミナル施設を利用したイベントの開催など、初期の話し合いの中でそのような意見があったかと思います。

上記の意見とは相反するかもしれませんが、報告書として延伸のメリットをより強く読み手に感じてもらうことを考えているのであれば、延伸されなくても多少なりとも活用の可能性があることに言及しないほうが良いのかなと思う気持ちもあります。

②

2. (1)アに「北海道胆振東部地震により～、応援ヘリコプターの拠点として、丘珠空港が活躍した・・・」という部分があります。しかしながら、駐機スペースの問題などから、札幌市消防のヘリの拠点は石狩市にあり、防災関係機関が集約されていないというのが現状なので、P3の下から3行目からの「現状の滑走路長では医療用ジェット～」の部分に駐機場の問題等により防災関係機関の集約がなされていないことも記載していただくと、滑走路が延伸できなかった場合でもエプロン整備によって、防災機能を強化できる可能性があることに含みを持たせられるのではないのでしょうか。

扇谷委員

①

担当課と石井委員長による、中間取りまとめ(5/15)と最終取りまとめ(5/27)に関しての要望)

文書会議は一同に介しての意見交換ができない形式であり、取りまとめ文書作成に関し、その作成過程の透明性を各委員に担保することが、行政の責務と考える。

そのために、中間・最終の「取りまとめ文書」を各委員へ送付の際、各委員の意見を省略することなく全文添付し、「取りまとめ文書」の妥当性を各委員が考察・理解できるようにする配慮が必要である。

②

現在、北海道は新型コロナウイルス（第2波）の蔓延により、国から「特定警戒地域」の一つに指定されている状況下にある。特に札幌での感染の広がりについて、鈴木知事は強い危機感を表明。「札幌から出ない。札幌へ行かない」と道民に強く訴えている。新型コロナウイルスはいつ終息するか見通しが立たず、第3波の感染爆発の可能性も排除できず、リーマンショック以上の甚大な影響を社会全体へ与えることが確実視されている。

このような混乱の最中、「将来の丘珠空港のあるべき姿」について拙速にまとめることは避けるべきであり、コロナ禍後の社会状況の変化を確認後、改めて「将来の丘珠空港のあるべき姿」を検討し直すことが、いま検討委員会に求められている。

以下、その理由を時系列で具体的に述べる。

(1) 2020年2月

道は新型コロナウイルスに対して、全国に先駆け 2/27 から小中学校休校措置・週末外出自粛対策を表明。札幌市は 2/28 から休校措置。

(2) 2020年3月

- ・全国小中高校は 3/2 から休校措置。
- ・世界感染者 50 万人超え、死者 1 万人超。オリンピック 1 年程度延期決定。
- ・航空業界もコロナ禍の影響を受け、最終の検討委員会 (3/30) も 5 月へ延期となった。正に 3/30 検討委員会はコロナ禍の真っ只中であつた。

(3) 2020年4月

14日「秋元市長第1回定例記者会見」で丘珠空港利活用について言及。

「丘珠空港の活性化延長議論の根底が崩れてしまっている。ここ一ヶ月二ヶ月で、当初想定していたスケジュールの中では難しいのではないかと発言。「それは一旦立ち止まるということか」との記者質問に「将来を見据えた議論をしていくのは、今はできない。」と発言。＜市 HP 動画で確認し要約＞

この行政のトップ市長発言を、担当課と検討委員会は真摯に受け止め、市長発言に添ってコロナ後の航空業界状況や社会変化を確認後、改めて丘珠空港利活用について議論すべきである。

佐藤委員

①

1. 丘珠空港の現状と課題について

2 ページの中段しかしながらの項目で 1992 年から 1998 年で 1500m の記載が有りますが、できるなら、反対意見の為にどの様な変更になったかを記載した方が歴史的背景や経過が理解した上で今回のディスカッションの理解が深まると考えます。(ex. 100m の延長と緩衝地帯の導入を行い現状の 1500m での運用のような表記など)

②

2. 丘珠空港の利活用の方向性について

アのメディカルウイング導入が、各地方でのドクターヘリでの搬送可能距離を超えたメリットのある治療が早期に可能になる点も記載した方が一般にはわかりやすく、導入メリットが理解できると考えます。医療に関しては必要性を感じている意見が多いので、メディカルジェットとドクターヘリの役割と守備範囲（飛行範囲）の違いを明確にすることでなぜ必要かについて理解が深まると考えます。

石井委員長（各委員からの意見を確認した上での意見）

新型コロナウイルスの影響については不確定要素が多く、現時点で軽々に評価し結論を出すべきではない。この委員会は丘珠空港の将来像という先の話をしているのだから、コロナ収束時点においてその対応を織り込んだ実施計画を作ればよい。市は新型コロナウイルスの影響による変化を制約条件としてしっかりと認識し、将来像の実施に向けて取り組んでいただきたい。

議題（2）その他

大沼委員

報告書にも明記していただいた通り、今後とも、特に周辺地域住民を中心に、膝をつき合わせた対話・連携の場を繰り返し設けていただければと願っております。

河本委員

個人的な意見ですが、今回の新型コロナの影響は生活面や経済面等で大きく、収束に時間もかかり、空港や空港周辺地域の役割も変化する可能性は高いと思います。一部の出張や会議は、インターネット利用（遠隔会議）等に変わっていくでしょう。しかし、コロナ収束後は、実際に人と会い話すことや、実際に風景や光景、文化財等を見て感動するといった重要性も、改めて見直されていくのかとも思います。この数ヶ月間、親しい人と会えない、旅行・観光にいけないことによるストレスや精神的苦痛を感じた人も多かったと考えます。この面でも、人の移動・交流の拠点、周辺地域住民の期待される交流拠点として「丘珠空港」の重要性は今後も高まると思います。なお、防災や災害時の活動拠点としての重要性は、コロナ後も普遍であり、今後の大規模災害に備える上でも、滑走路延長含め機能強化は不可欠と考えます。

以上、航空機による騒音等影響を直接受ける住民の方への配慮や理解を得ながら、丘珠空港の利活用が進展することを願います。

高野委員

特にありません。

田村委員

今更ながらの指摘ですが、空港利活用は、「空港」、「航空会社」、「需要」の3点が揃ってはじめて実現します。今回のコロナウイルス禍は、この3要素を根本から見直すことになると言われていています。すなわち、コロナ禍後の交通ネットワークは、①質を含めた需要の変化、②各国の規制とその解除の過程、③航空会社・空港会社の破綻と統廃合、で決まると言われ始めました。バス事業やタクシー業と異なり、

グローバル化した航空産業の復興には3～5年掛かりそうです。(現在、私はアジア交通学会の副会長をしており、アジア19か国の研究者(半分は行政官)とオンライン会議をしての感想です)

安田委員

ポストコロナ時代でこそ、丘珠空港が活用される新しい姿を願うばかりです。

北島委員

特になし。

坂田委員

丘珠空港交通アクセスを具体的に検討してもらいたい。

三澤委員

騒音問題については、学校、住宅等で、千歳空港近隣で行われている防音対策工事も検討すべきである。

井戸委員

3回の会議を経て、さまざまな意見に触れる中で、私自身当初は滑走路を延伸せずしての利活用を重点的に考えていましたが、滑走路を延伸することによって丘珠空港が空港としての機能の幅を広げ、さらに役立つ空港としての可能性が大いにあると感じ、できることなら滑走路を延長したほうがよいと考えるようになりました。今後、滑走路の延伸に関する話し合いは優先すべきことかと思えます。しかしながら、滑走路の延伸が決まり、工事を経て使用するまでには長い時間を要します。その期間においても、滑走路延伸後の将来像に眼を向けながらも、現状の空港におけるイベントの開催等ソフト面での活用や丘珠空港と空港周辺を盛り立てる施策に関しても常に話し合ってもらいたいと思います。滑走路の延伸の可否がゴールではなく、延伸してもしなくても札幌市にある空港としての価値を最大限生かせるサポートを今後もお願いいたします。

扇谷委員

札幌市第3セクターである丘珠空港利活用は、コロナ禍後の社会環境(航空の役割等)の変化を見定めながら、これまでの価値観から脱却し、柔軟な発想を取り入れる工夫を加味しながらの検討が求められる。

また、丘珠空港の将来像を語る時、飛行直下地元住民の生活環境に係る飛行騒音問題は極めて重要な課題である。飛行直下住民が生活の場でリアルに感じているのは、環境基準値ではなく騒音レベルの最大値である。環境基準をクリアしている騒音だから、飛行回数が増加するのは問題ないという行政側の認識は改める必要がある。特に、安全・安心を担保されるべき学校等の施設上空の飛行状況には、最大限の配慮が今後とも必要不可欠である。滑走路延伸に係る飛行ルート変更の有無については、詳細な設計図(延伸方向・延伸長)がない段階では不明である。この段階で、この度の扇谷委員の質問「百合が原小学校上空での延伸後の飛行ルートの変更の有無について」に対する行政回答は、あくまでも予測であり正確性を担保できないものである。

その意味で今後予定されている「地元住民説明会」の場では、利活用策のメリットに留まらず、デメリット揭示も欠かせない。「地元住民説明会」は行政と地域住民との信頼関係を築く場であり、そこに心を寄せる行政の姿勢が望まれる。

佐藤委員

空港活用の議論の際には反対賛成の両面からの意見があり、特に反対の意見から断念もしくは計画の遅延が起こることがしばしばと思います。今回の検討でも地区住民からの懸念や問題提起があり検討委員会での解決や提案を行う事は難しいと感じました。

検討委員会と市議会などでの検討議題をある程度分けて議論することも必要とも思います。

丘珠空港の活用方向性は早期に決定して運用を目指していく事が空港はもとより地区の街づくりや札幌市、ひいては北海道の将来を決定するものですので、長期化にならないような意見の調整が必要だと思います。

是非とも、強力なリーダーシップを持って今後も行っていきたいと思っています。

(各委員から頂いた意見に対する事務局のコメント)

札幌丘珠空港利活用検討委員会につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大を受け一度は任期を延長したところでございますが、現時点で収束の目途が立たないこと、本来は令和元年度内の任期であること等から、石井委員長と相談し書面会議での取りまとめとすることに致しました。今後につきましては、委員の方々からご指摘の通り、航空業界を含む社会全体への影響等、新型コロナウイルス収束後を見据えた検討も加味する必要があると認識しています。また、引き続き周辺地域住民との対話を通して、周辺環境への配慮についても検討していく考えです。

<2回目の意見（追加で意見があった委員のみを掲載）>

議題（1）札幌丘珠空港利活用検討委員会報告書（案）について

河本委員

適切な修正が加えられるとともに、欄外で参考事項の説明が適宜付記されて、よりわかりやすいものになったと考えます。

扇谷委員

1. 9 ページの最後 2 行「札幌市には、今回の事態により人の移動や交流に対する価値観が変化する可能性もあることを踏まえ、将来像の実現に向けて取り組んでいただきたい。」が事務局案から変更されているが、以下(1)～(5)の理由で、事務局案をごく僅かな修正により活かすことの方が妥当であり適切と考える。

- (1) コロナ禍により、日本を代表する大企業トヨタは今後の経営戦略の転換を迫られ、ソフトバンクも 2020 年 3 月期純損益 9615 億円を計上。もはや、中小企業だけの問題ではなくなっている（マスコミ報道より）
- (2) 航空業界への打撃も計り知れないものがあり、北海道エアポートも道内 7 空港の 5 年旅客目標を下方修正した。この度の委員意見の中にも「航空会社・空港会社の破綻と統廃合の可能性が示唆され始めている。」との情報提供があった。実際、世界大手のタイ国際空港が破綻した。
- (3) 全 9 ページに渡る事務局案は、8 ページまでが、第 1 回～第 3 回検討委員会協議内容記述で占められ、新型コロナウイルスに関する記述は最後 9 ページの半分にすぎず、今年度の検討委員会が積み上げた協議は、いささかも毀損されていない。むしろ、非常に詳細に記述されている。
- (4) 今回の委員意見一覧によると、丘珠空港がコロナ禍から影響を受けないと考える記述は見られ

ない。

- (5) (1)～(4)を踏まえ、これまでの検討委員会協議を活かしつつ、コロナ禍真っ最中の第4回検討委員会（書面会議）を踏まえ、現状をしっかりと直視して適切に表現している事務局案が妥当と考える。

●事務局案

「しかし、今回の事態により、今後は人の移動や交流に対する価値観が変化する可能性も想定されることから、社会全体の動向を注視し、新型コロナウイルス終息後を見据えた検討が必要である。」

↓↓↓

●修正のポイント（事務局案冒頭「しかし、」を削除し、「検討が」を「検討も」にした。）

「今回の事態により、今後は人の移動や交流に対する価値観が変化する可能性も想定されることから、社会全体の動向を注視し、新型コロナウイルス終息後を見据えた検討も必要である。」

2. 11 ページ（第4回の主な論点）

「騒音等による周辺への影響について」を言語化し、9 ページ最後部分へ追加する。（ここでは意見

1. で述べた修正文を活かした。）

↓↓↓

「今回の事態により、今後は人の移動や交流に対する価値観が変化する可能性も想定されることから、社会全体の動向を注視し、新型コロナウイルス終息後を見据えた検討も必要である。また、丘珠空港の周辺環境（騒音等）について、地域住民との対話を深めることも求められる。」

3. 11 ページ（区分）

第4回の下部に（書面会議）と明記する。

※下線部が変更部分

佐藤委員

修正報告書は、前回報告書からの各委員の意見を反映しており、現時点での空港利活用の方向性を検討する今委員会の報告書としてはまとまったと考えます。

最後に事務局の皆様のご尽力に感謝いたします。

石井委員長（各委員からの意見を確認した上での意見）

- ・新型コロナウイルスの影響による社会の変化をしっかりと見て、実施に向けて取り組んでほしい。
- ・まちづくりや環境問題に関する地域住民との対話については、既に報告書の中に盛り込まれていることからあえて追記する必要は無いと考える。

議題（2）その他

河本委員

委員の皆様幅広い意見を聞く機会をいただき、私自身ももう一度勉強や熟考させていただくことができ、感謝しております。委員会終了後も、丘珠空港の利活用について、地域理解も含め議論が進展されることを期待します。

安田委員

新型コロナ禍により経済・社会環境がグローバルに急激に変化する中、もはや以前と同じ条件で検討することはできないと思います。ただ、将来、再検討の際に、この報告書の一部でも参考になればと願っています。

北島委員

少子高齢化で北海道の人口は400万人台になると言われており、一人当たりの年間消費額は127万円程度であるが、一昨年の訪日外国人一人当たりの平均消費額は、15万3千円であり、約8人で年間消費額の一人分に当たる。滑走路の延長によりLCCを運航し、外国人の来道を促進して、たとえば、人間ドックを利用出来るようにしたり、外貨の獲得も望ましい。加えてLCCが安定して運航されると、石狩湾の工業団地に、航空機や、自動車の部品工場を誘致して、札幌の老齢化（若い人材は首都圏の就職が多い）への対策にもなるため、改めて滑走路2,000mの整備を求めます。

栄町駅から、地下鉄より安価なロープウェイを整備し、地元には丘珠空港だけではなくて、サッポロさとらんどやモエレ沼公園という立派ないろいろな施設があるので、そういったところへの周回性を確保してほしい。

扇谷委員

「コロナ禍終息後は、元の社会・経済には戻らない。」との指摘は、多く聞くところである。その可能性も排除することなく、将来の丘珠空港の姿を模索していくとしたら、今後担当部局に望まれることは何かを考えたい。

1. 「まちづくり政策局」の管轄事案であっても、まちづくりに関する視点が異なる環境局等他部局との意見交換は有益であり、縦割り行政の枠を外した丘珠空港の未来像模索が望まれる。
2. これまでの価値観に縛られない多様なアイデアを、多くの市民から受け取る場面設定と、それらのアイデアも加味したまちづくり専門家集団（まちづくりに見識を持つ方々）が協働するしくみづくりが望まれる。それらの触媒・コーディネーター的存在として、担当部局の役割があると思う。
3. 「丘珠地域住民に愛される丘珠空港」を模索することは重要である。地域住民の小さな声にも耳を傾ける、懐の深い担当部局であることが望まれる。地域に愛されてこそその丘珠空港である。

佐藤委員

「新型コロナウイルス感染症による検討委員会の終了にあたって」

丘珠空港利活用は現状を含め将来について随時検討が必要な施設で、その時々々の社会情勢等により活用の方向性や空港施設の存在そのものが問われることが多いと思います。また、街づくりの点からもその存在や活用が地域住民、札幌市、北海道の経済活動など様々な点で影響するとも思います。以上のことから今回の丘珠空港利活用検討委員会で現時点での様々な観点からの意見収集、検討が有意義であったと考えます。

しかしながら現在は予期せぬ新型コロナウイルス感染拡大が発生しその影響が地域のみならず国内、全世界へと広がった。新型コロナウイルスは当初の疾病・疫学的問題から時間経過に伴い経済問題にまで波及している現状を考えた時、経済活動の面から見た空港というインフラは見直しや現状に合わせた再検討などが必要と思いますが、地域医療と災害は経済活動に関係なく審議継続されることが必要と考えます。特に災害については時々々の情勢や経済などに関係なく発生することから、非常時インフラとして

の活用・医療等での活用の期待に応えるべく整備を検討することも必要ではと考えます。備えあればとの考えの下の体制・施設作りの災害・医療での効果は、北海道東部胆振地震の経験からも明らかで特に空港施設活用の面からは東日本地震時の花巻空港や仙台空港などの活用が参考になると思います。更に今後懸念される COVID-19 の如く未知の感染症などで人員・物資の緊急対応への応用の可能性も有ると考えると、自粛等通常時ではない経験を踏まえた今が検討する機会なのかもとも思います。

また、利便・利益を得る立場からの意見とそれにより影響を受ける立場の意見との十分な意見のすり合わせを継続的に行うことも空港利用計画の早期実現と活性化になると考えます。今後も、大変な作業とは思いますが、様々な点からの意見収集・検討からの早期計画提案・作成と計画実現をお願いいたします。

(各委員から頂いた意見に対する事務局のコメント)

これまで頂いた皆様からのご意見を踏まえるとともに、新型コロナウイルスによる航空業界を含む社会全体への影響等を加味しながら、今後、札幌市として「丘珠空港の将来像(案)」を作成した上で、空港周辺地域住民の方との対話を行い将来像の取りまとめを行う予定です。

丘珠空港が持つ様々な役割をさらに果たすために将来像の実現に向けて取り組んでまいります。

以上